



404

NOT FOUND

Vox x Alastor



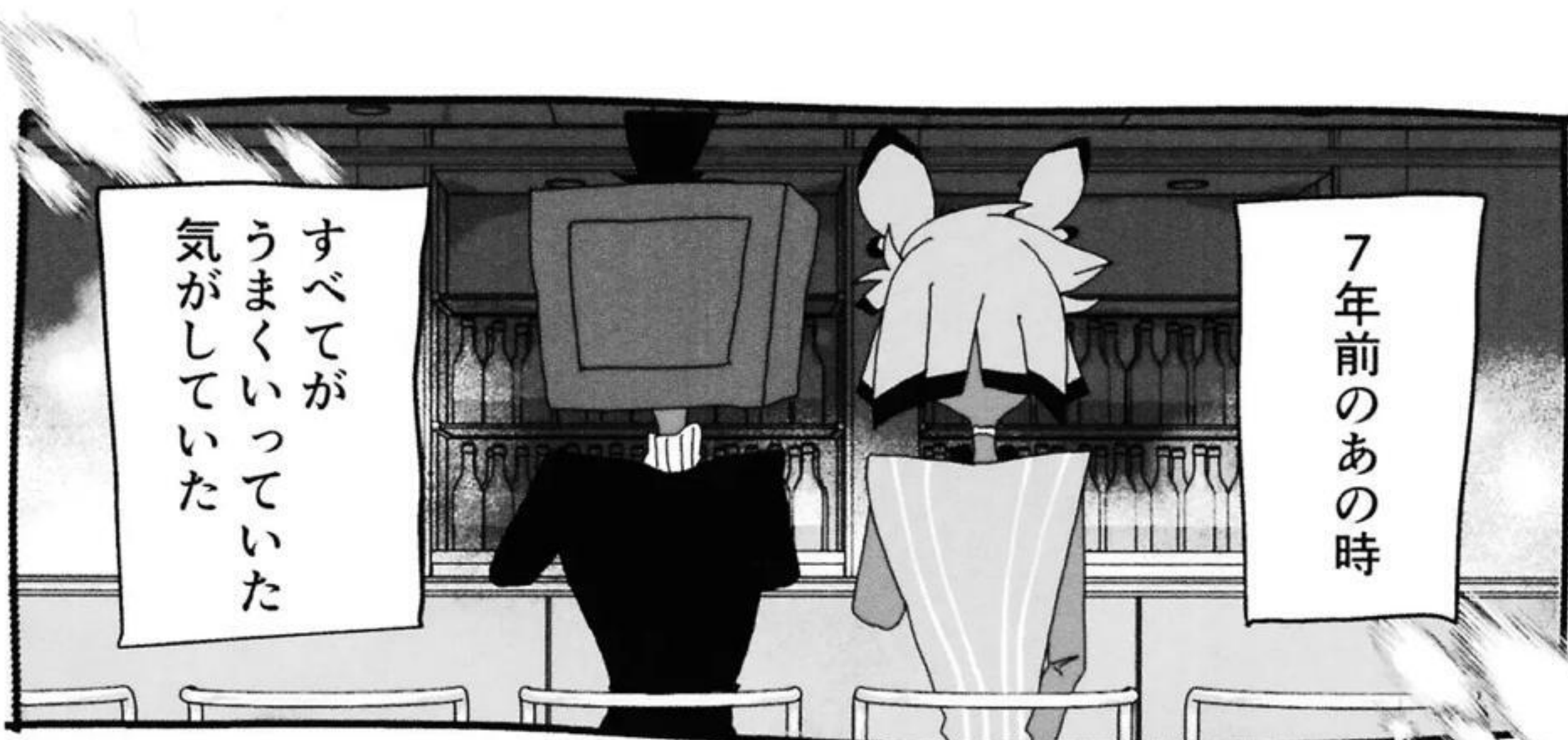
R18G
残酷な表現を含みます

転載禁止

DO NOT REPOST
禁止转载

注意事項

- ・18歳未満の閲覧を禁じます。
- ・レイプ、無理やりの性行為のシーンが含まれます。
- ・流血の描写などグロテスクな表現を含みます。
- ・攻めの自慰行為の描写が少しだけあります。
- ・ヴォックスの精神状態をかなり不安定に描写しています。何でも許せる方向けです。
- ・過去、2人が仲良しだったという前提になっています。



7年前のあの時

すべてが
うまくいっていた
気がしていた



——そこで、
私はそのアイデアを
発表したんだ

そしたらもう
社内中が
パニックだ！
笑えるだろう

アハハ！



ヴォックス
あなたって本当に

面白い人ですね！

うまくいっていた
気がしていた。

はあ？
私の誘いを
断りたい？

なぜだ

君にとって
有益なはずだ

何もかもを
用意したんだ！

建物だって

君のために
建てた

君のすべてが
もう少しで
私のものになる
はずだった
はずだったのに

そうだ、私も君も
互いが必要なんだ
わかるだろう？

なあ

どうして？
何を間違えた？

狼狽える私を前に
アラスターが
優しく微笑んだ。

それを見て
胸が苦しくなって
もしかしたら
私は、俺は、
アラスターを

どうしたら
俺のものに
なってくれる？

ヴォックス
あなたって

本当に

愛しているのか
しれない

哀れな人ですね

それは、
気づきかけた感情に
蓋をするには
充分すぎた。

…クソが

俺はお前なんて

大っ嫌いだよ！

404

NOT FOUND Vox × Alastor

時は流れ現在。
アダムと戦い
傷を負った
アラスターのもとへ。

今ならアラスターを
殺せると思った。

今日こそ

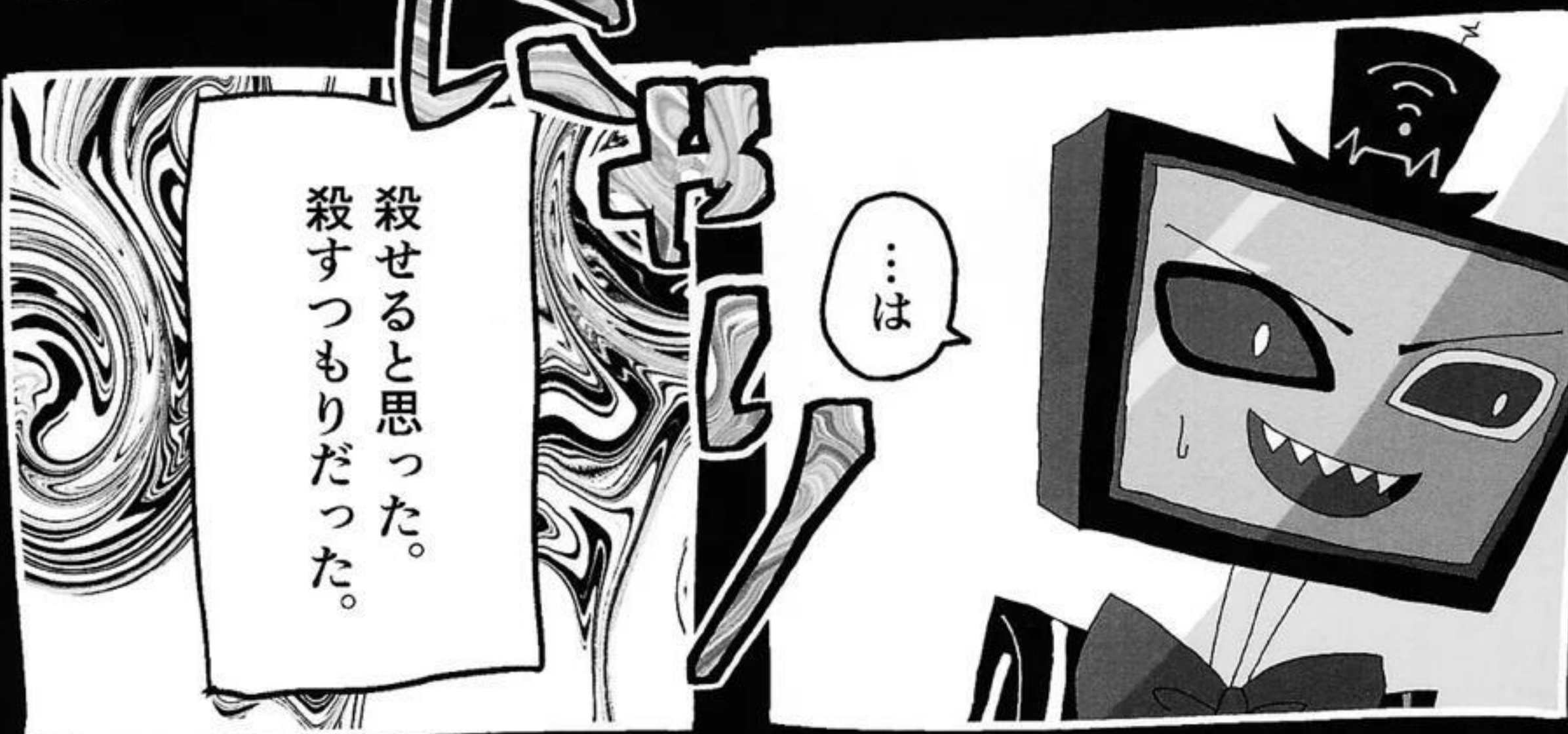
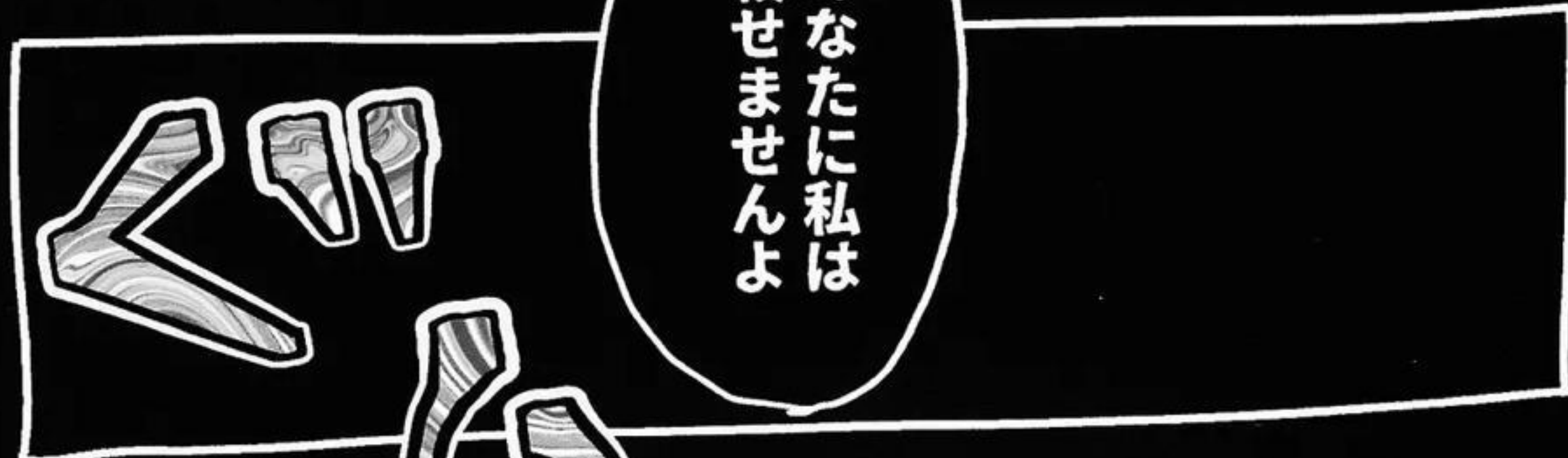
殺してやる！

ははっ





あなたに私は
殺せませんよ



殺せると思った。
殺すつもりだった。



だってあなた

だから、



私のいない
地獄で

生きて
いけない
でしょう？

だから、
これは間違いだ。
だって俺は
お前が嫌いで

こいつのいない
地獄を一度
知っている

お前が行方を
くらませた時なんか
最高の気分で

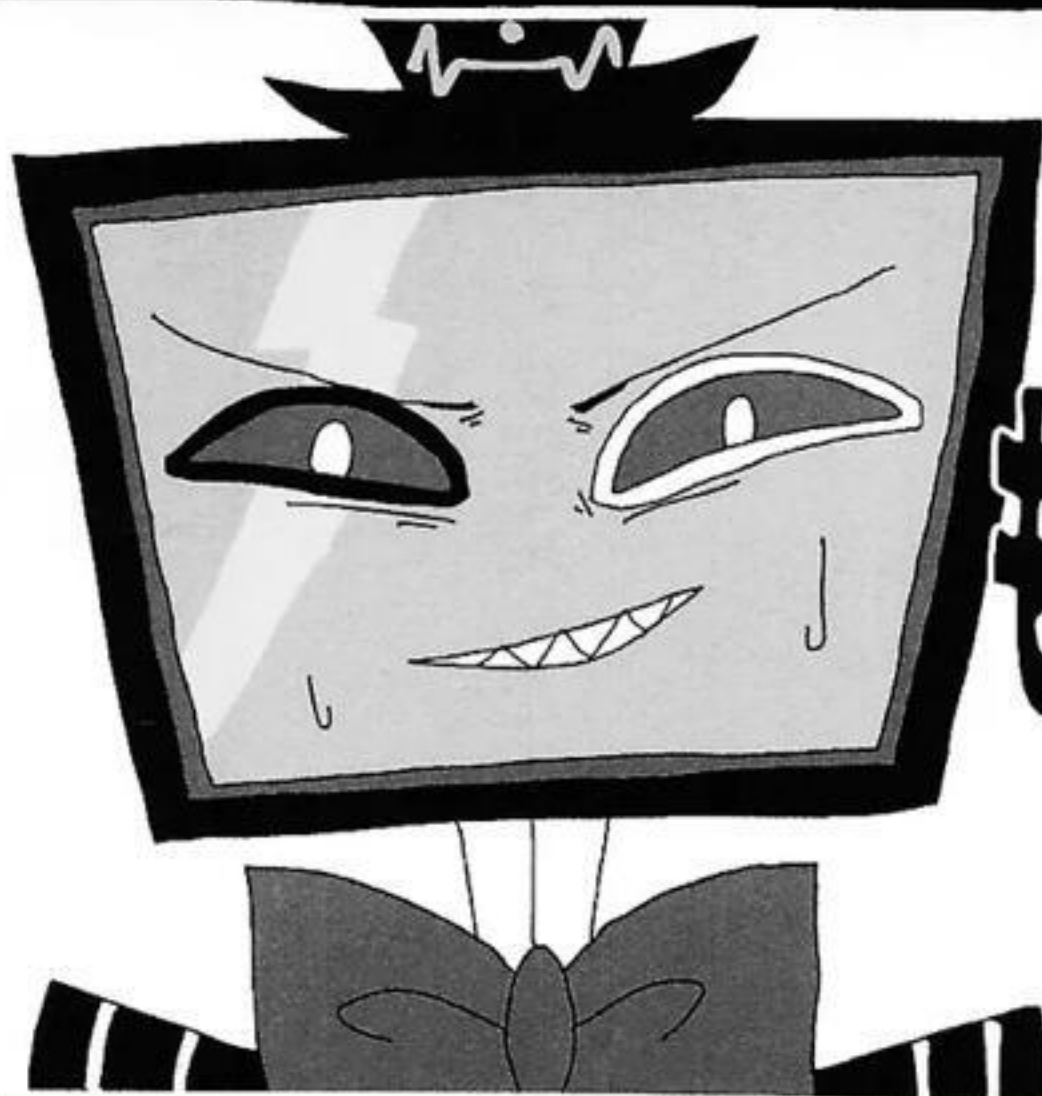
それは告
屈で

お前が嫌いで、
殺したくて
殺したくて
仕方なくて！

あんなのは
もう二度と

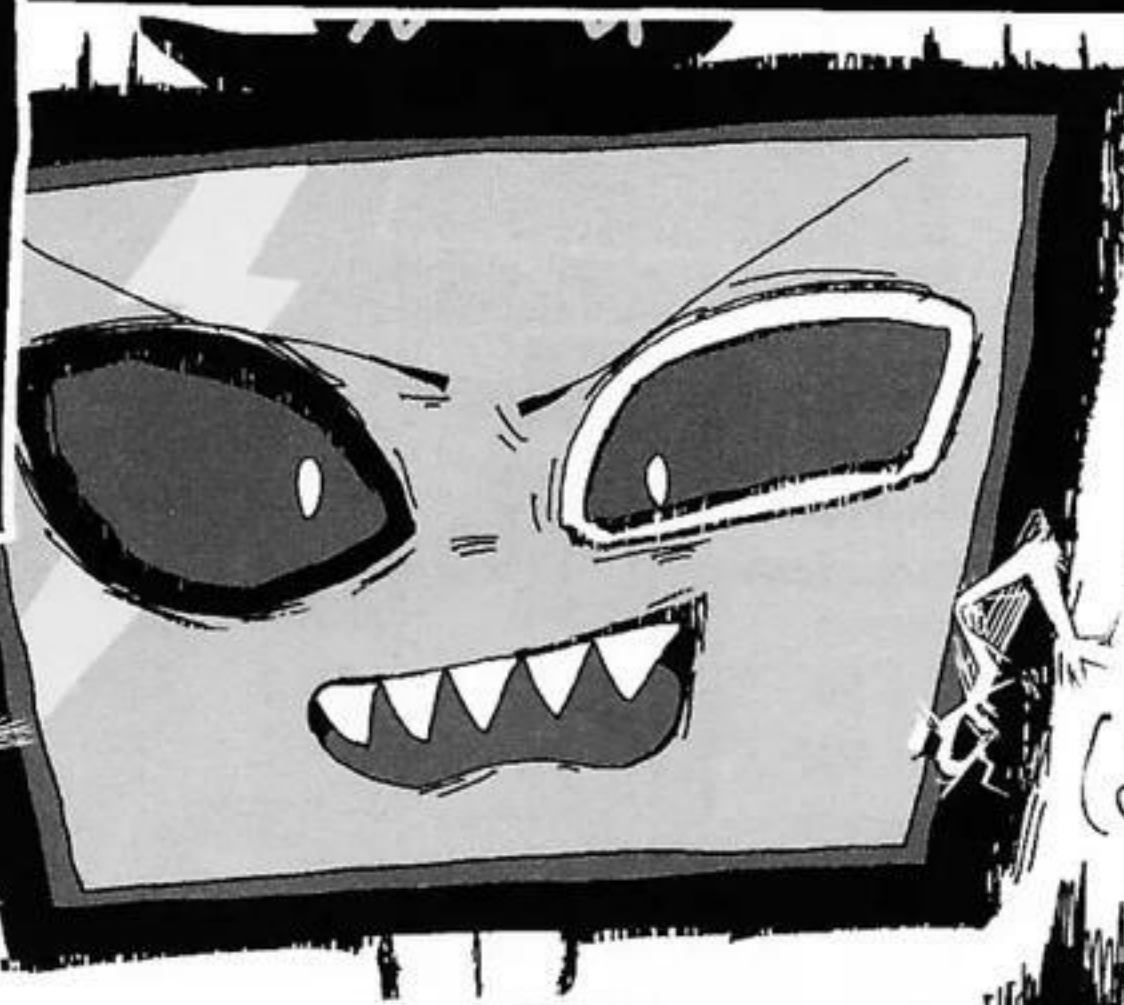
もう二度と
お前を

クソが



もう二度と？

失いたくない、
だなんて



クソッ

そんなの
まるで、

はあ

恋じゃないか！





ヴォックス

一度だけ、
アラスターと
セックスする
夢を見たことがある。

妙にリアルな夢だったが

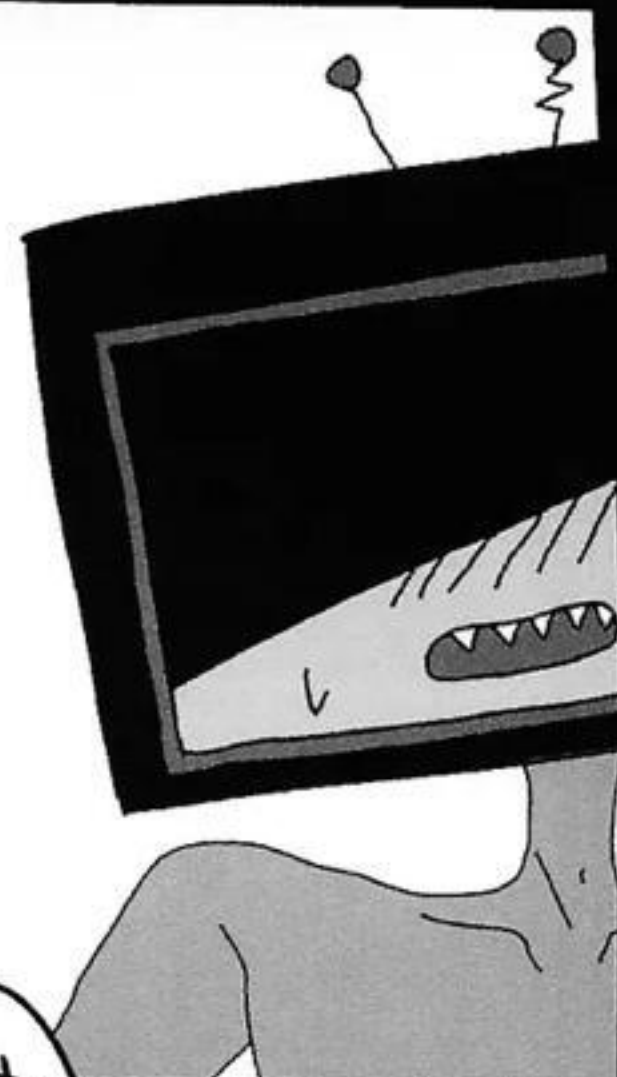
なんて愛おしい
ヴォックス

などと嘯いていたので
すぐにこれが悪夢
だったのだとわかった。

なのに起きたら、
すっかり身体は
興奮していて

嘘だろ…

と、かなり
落ち込んだ。



だって俺は
アラスターのことが
嫌いだから。

なのに全然
熱りは冷めず

ああ

逆に
興奮する
ばかりで

不安に
なったので

はー

あ

何度も殺す妄想をした。

ぐっちゃぐちゃの死体を
必死に鮮明に描いた。

そしたらそれが、逆に
本当に気持ち良かったので

俺はアラスターのこと、
ちゃんと嫌いじゃないか！と
安心したのだった。

ああ、実際に殺せたらどれだけ、
気持ちいいのだろう！



いあめ

実際に殺せたら？
今が恐らくその時だ。
なのに怖くて、
ようやくわかった。

「お前を殺せない！」

いあめ

俺は、アラスターを
愛してしまったんだ。

いあめ

力尽きたアラスターを連れ帰った。

ベッドに寝かせると、それは

夢で見た光景によく似ていた。

気がついたら、

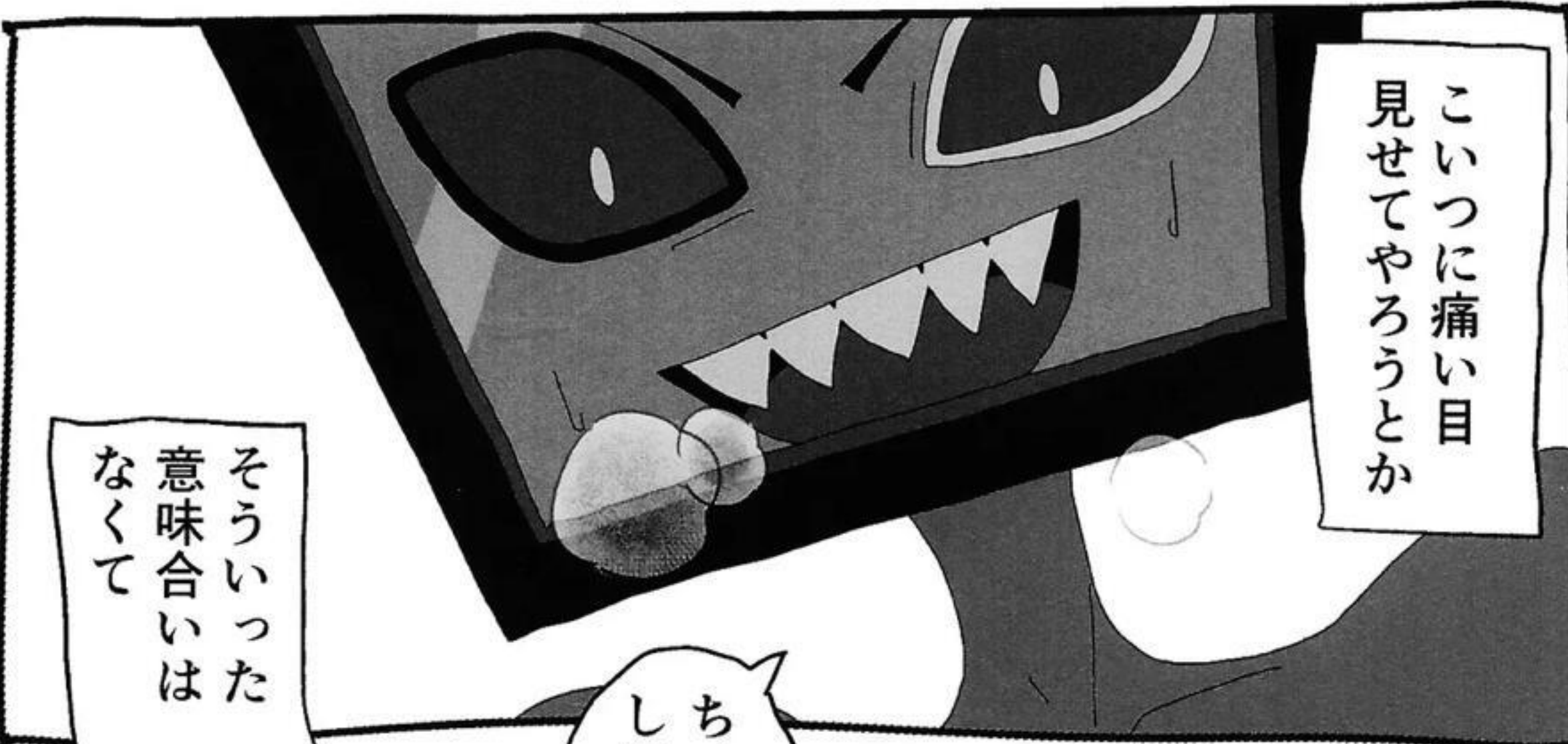


ほら
やっぱり

殺せなかつ

犯して
いた。





こいつに痛い目
見せてやろうとか

そういった
意味合いは
なくて

ちゃんと録画も
してるからな

アラスター

ただただ
気づいてしまった
恋心の行き先が

● REC

はじめから
潰えていたので

絶対に
忘れないでくれよ

俺も
「何やってるんだろう」
そう思いながら

俺が

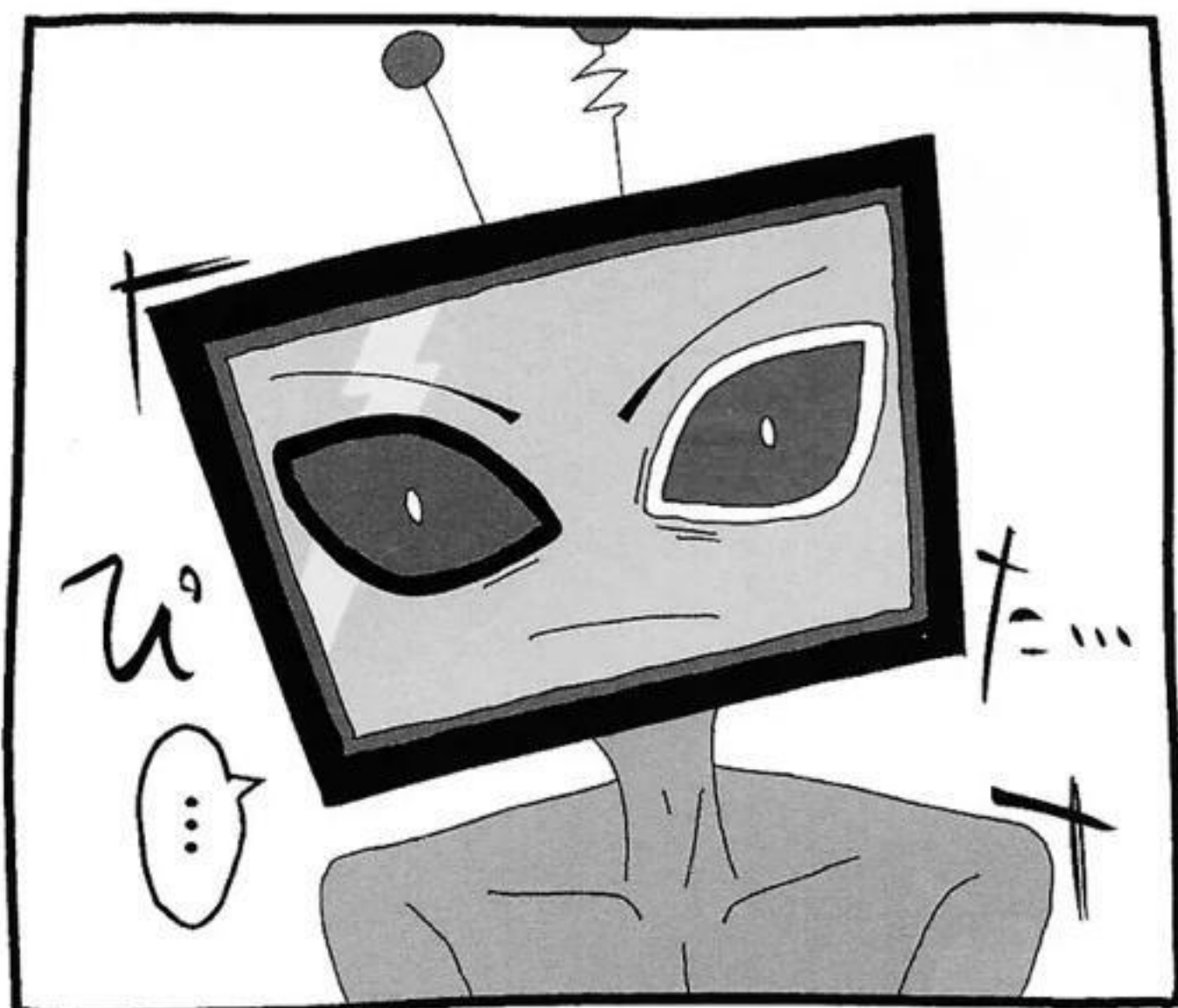
● REC



何が正しいかな
考えたくなかった。
なあ!

愛してる

アラスター、
愛している



…気持ち悪い

貴方がさっきから
喚いている

その「愛してる」は
あまりにも自棄だ

馬鹿みたいに
性欲に昇華して
支配者ぶって



不快です。

本当に、

気持ち悪い、



悪い
深く挿れすぎた

…ああ

ズッパッパッ



だが、

はー

すー

ん

とちゅ

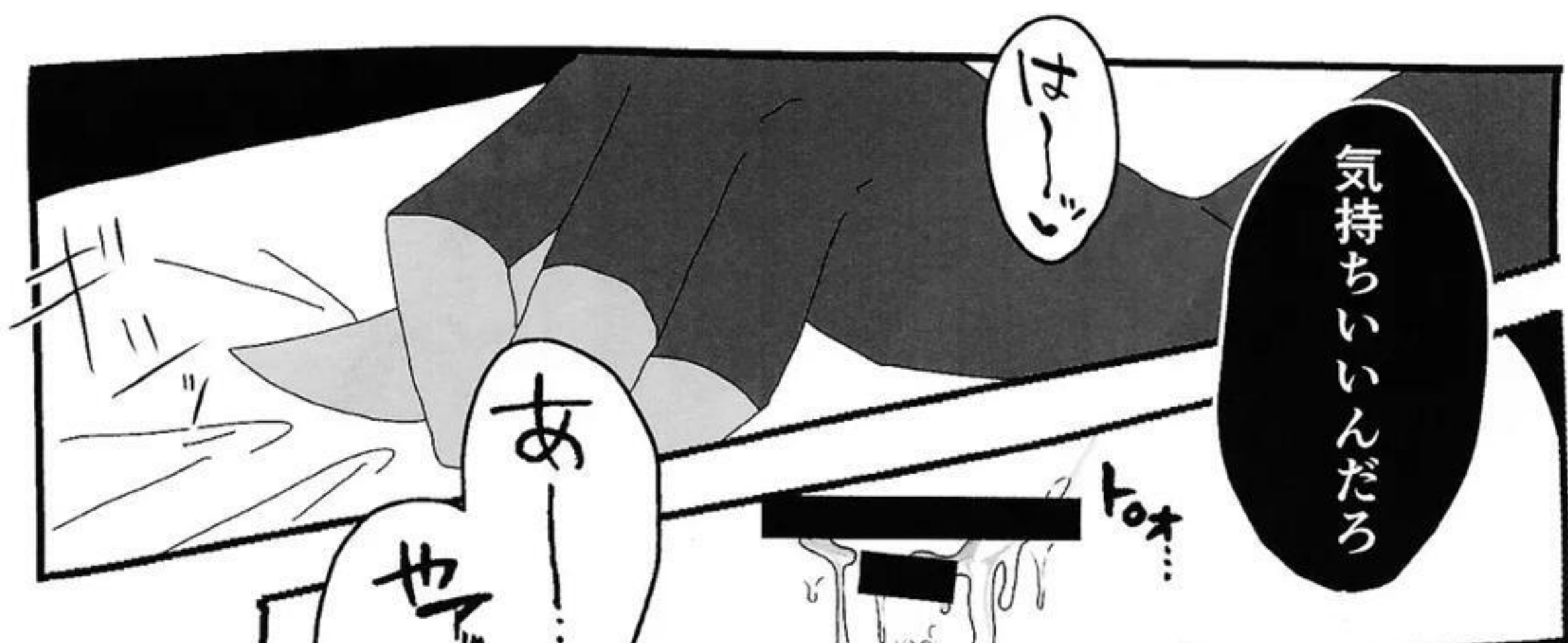


どうだよ！
気持ち悪いだど？
どの口が！

あー

ほら、

とちゅ



気持ちいいんだろ

はーッ

あー

ちゅーん

たっはっ

そんな声出して!

あっ、あ

嬉しいよ
アラスター

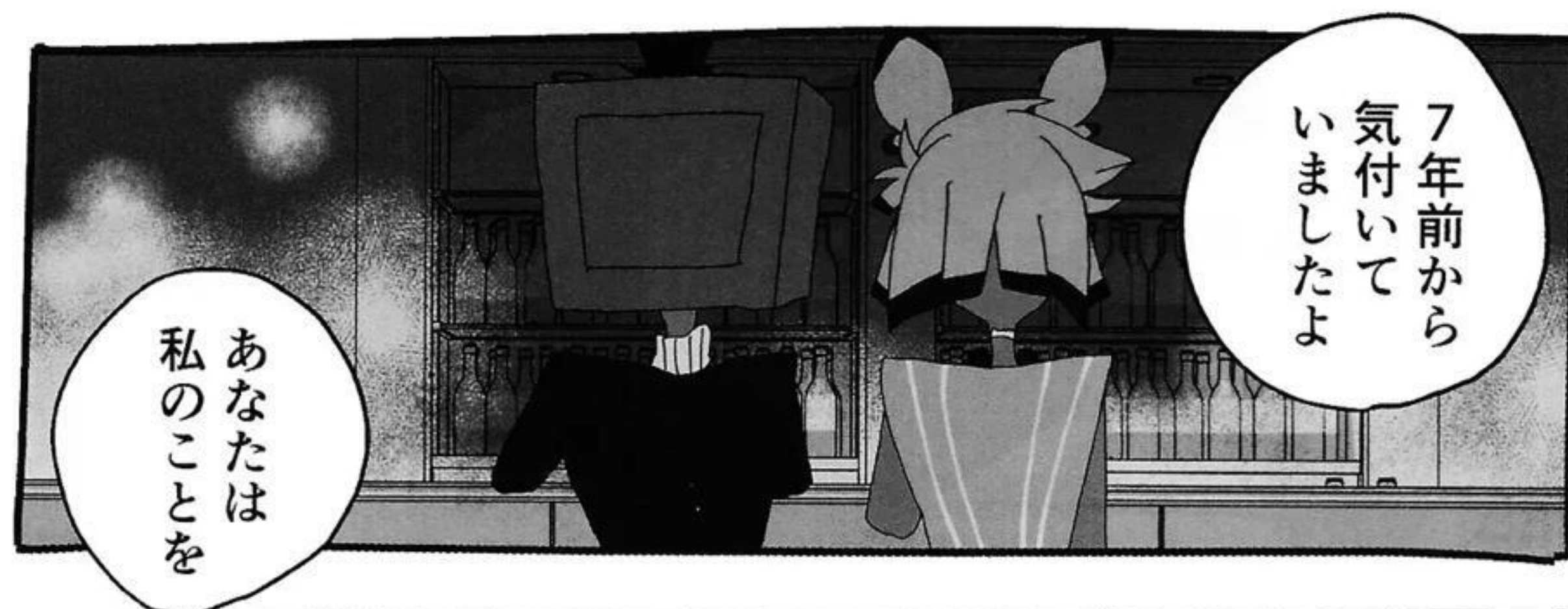
たっはっ、たっはっ

俺たち
まるで

あー

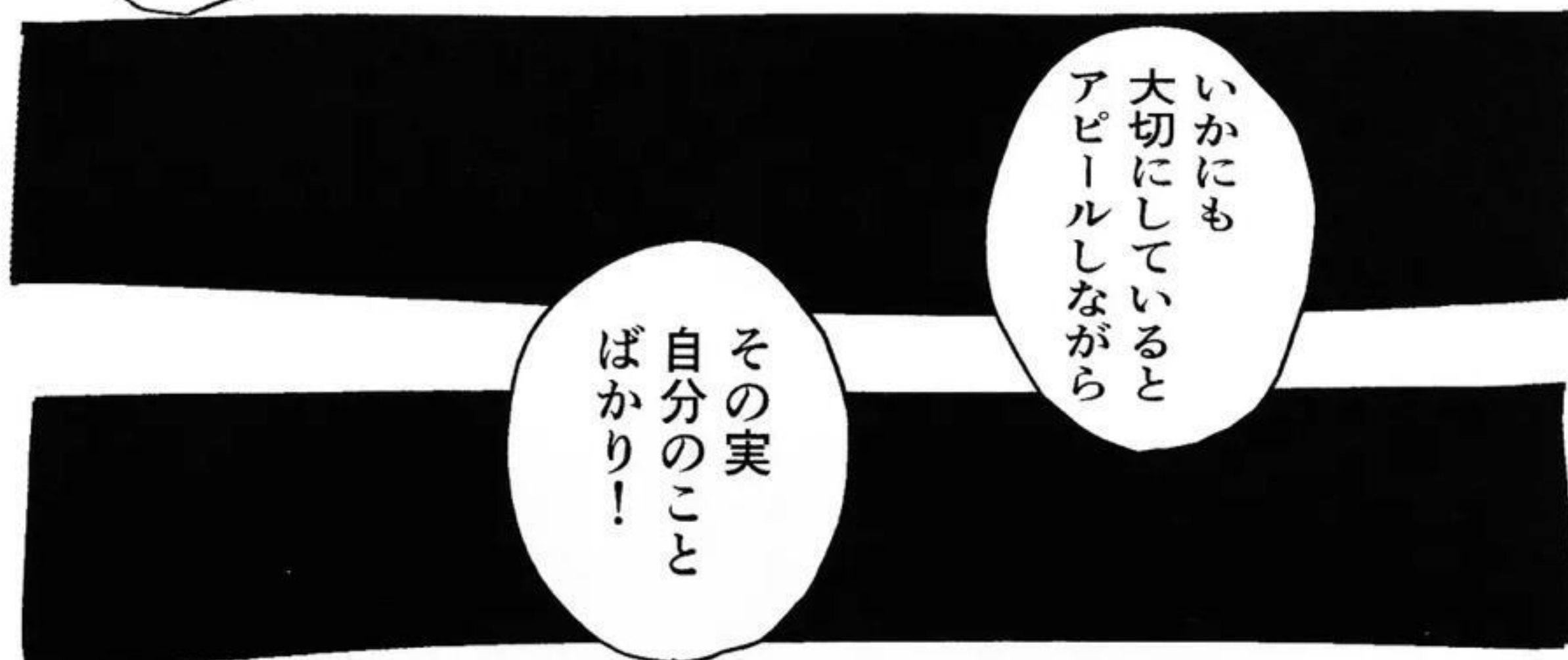
バキッ♡





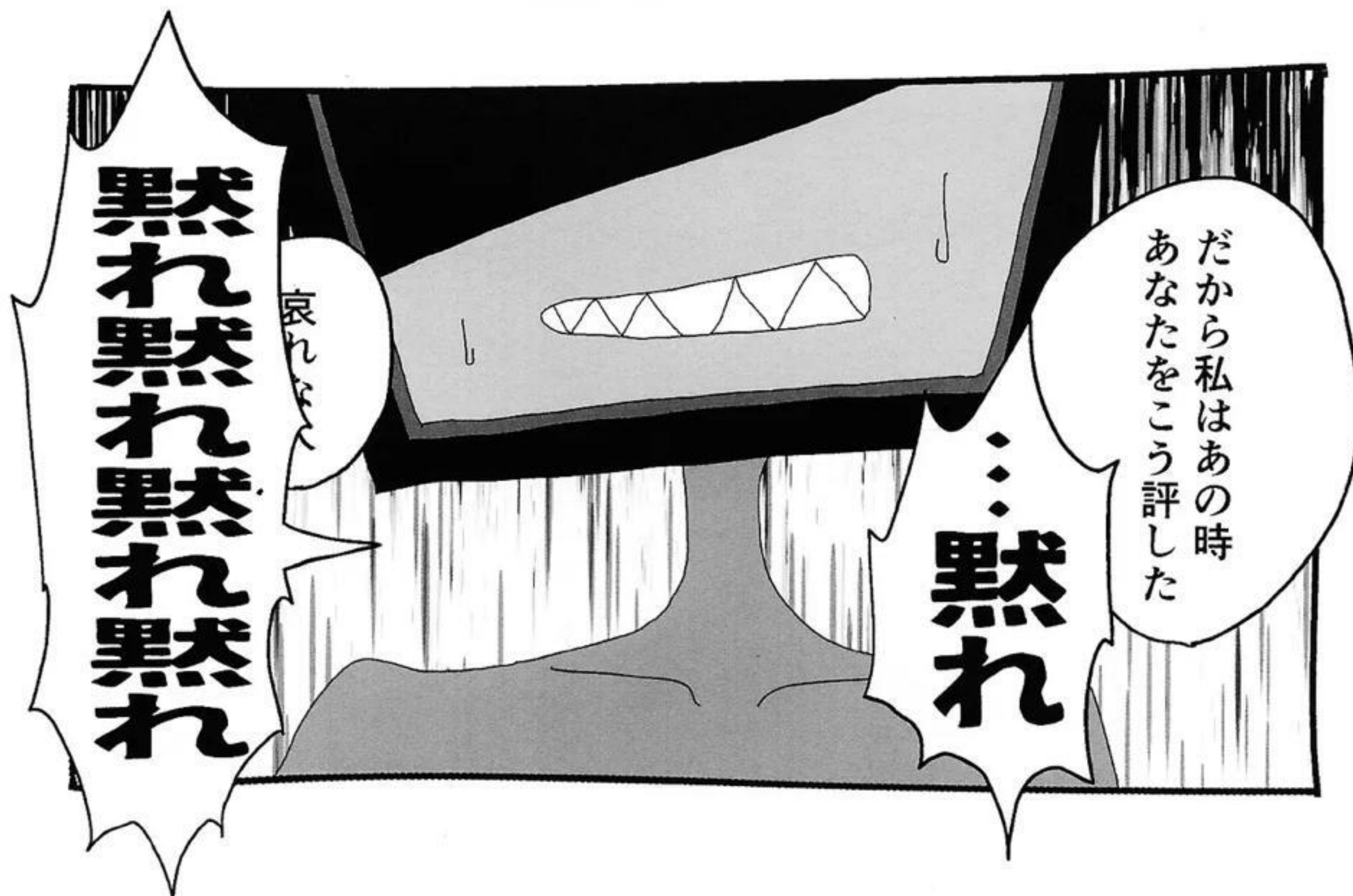
7年前から
気付いて
いましたよ

あなたは
私のことを



いかにも
大切にしていると
アピールしながら

その実
自分のこと
ばかり!

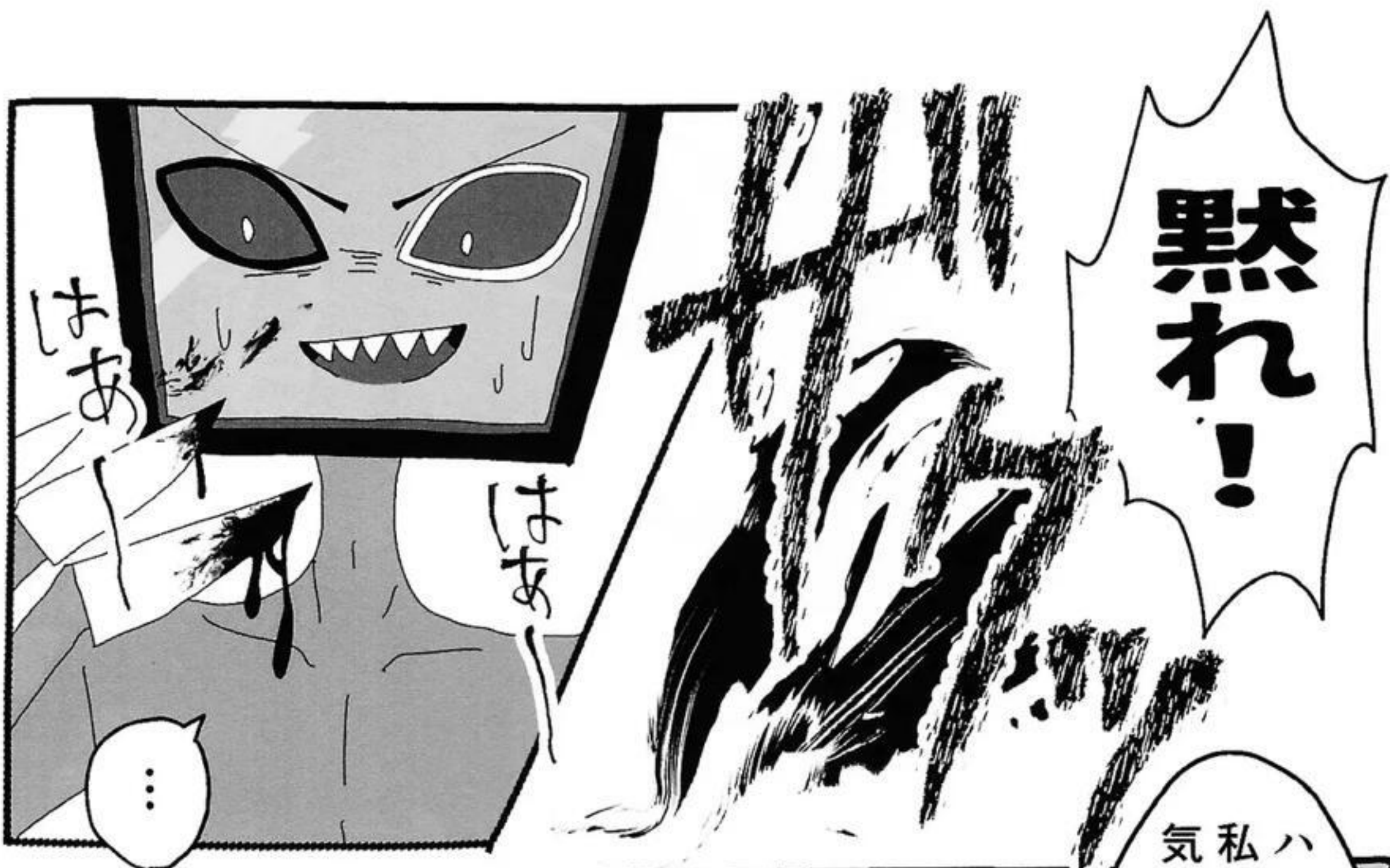


だから私はあの時
あなたをこう評した

…
黙れ

黙れ黙れ黙れ黙れ

哀れ







それで
満たされていく
気がしていた。

何度も奥を
突きながら
傷をつけた。

傷口を爪で
強く抉った。
はー



アラスター、お前の

お前の全てが欲しいと思った。

思ってしまった。

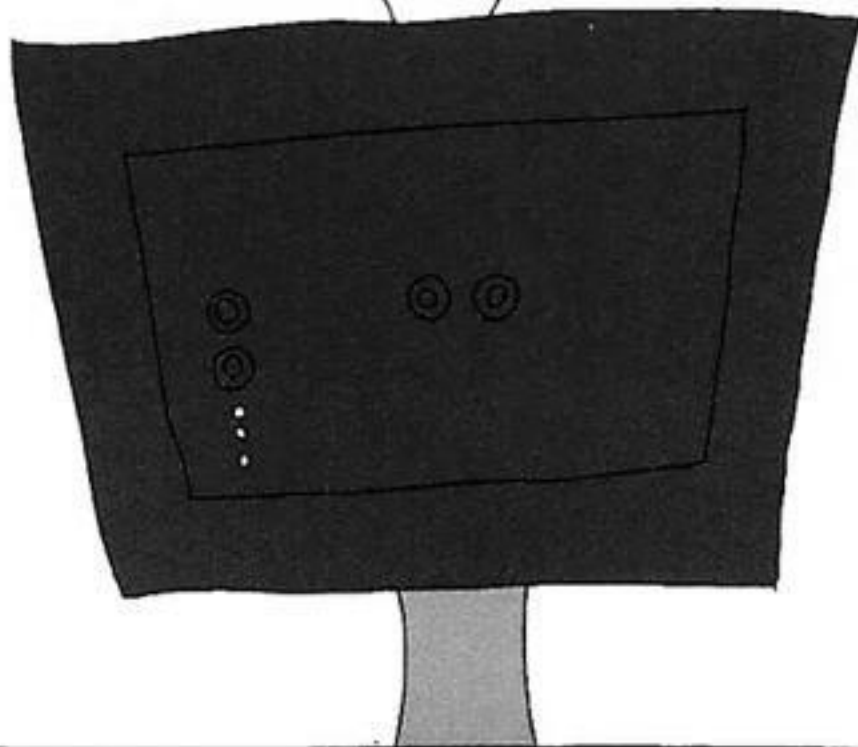




どんなに
気持ち良さそうな
声を上げさせても
どんなに
痛みと傷を
残しても



何も得られない。
段々と失われていく
感覚だけがする。



俺は
こんな事が

したかったのか？

今こうして、
俺に抱かれていますだけの
アラスターは



俺が望んだものなのか？



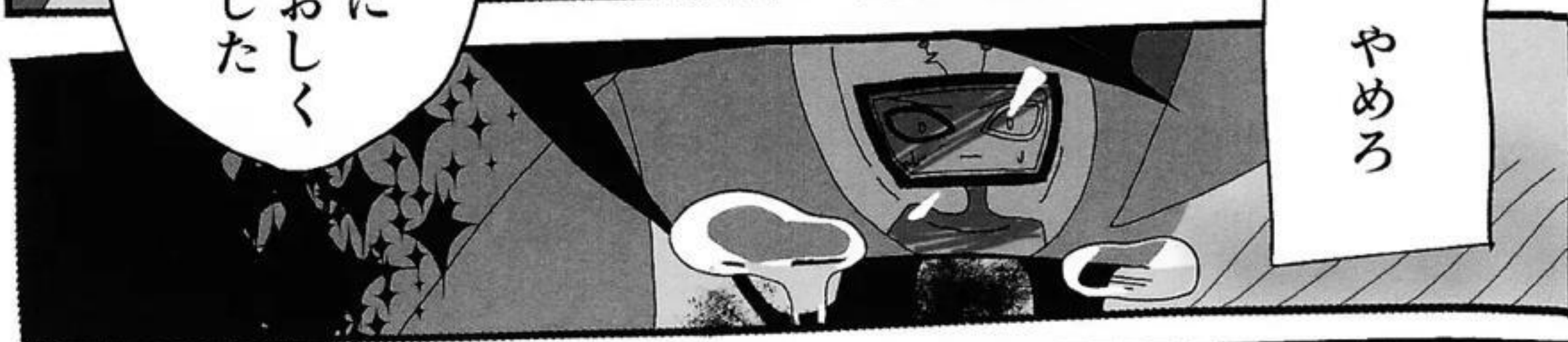


私、

なんだか急に
あなたが愛おしく
思えてきました



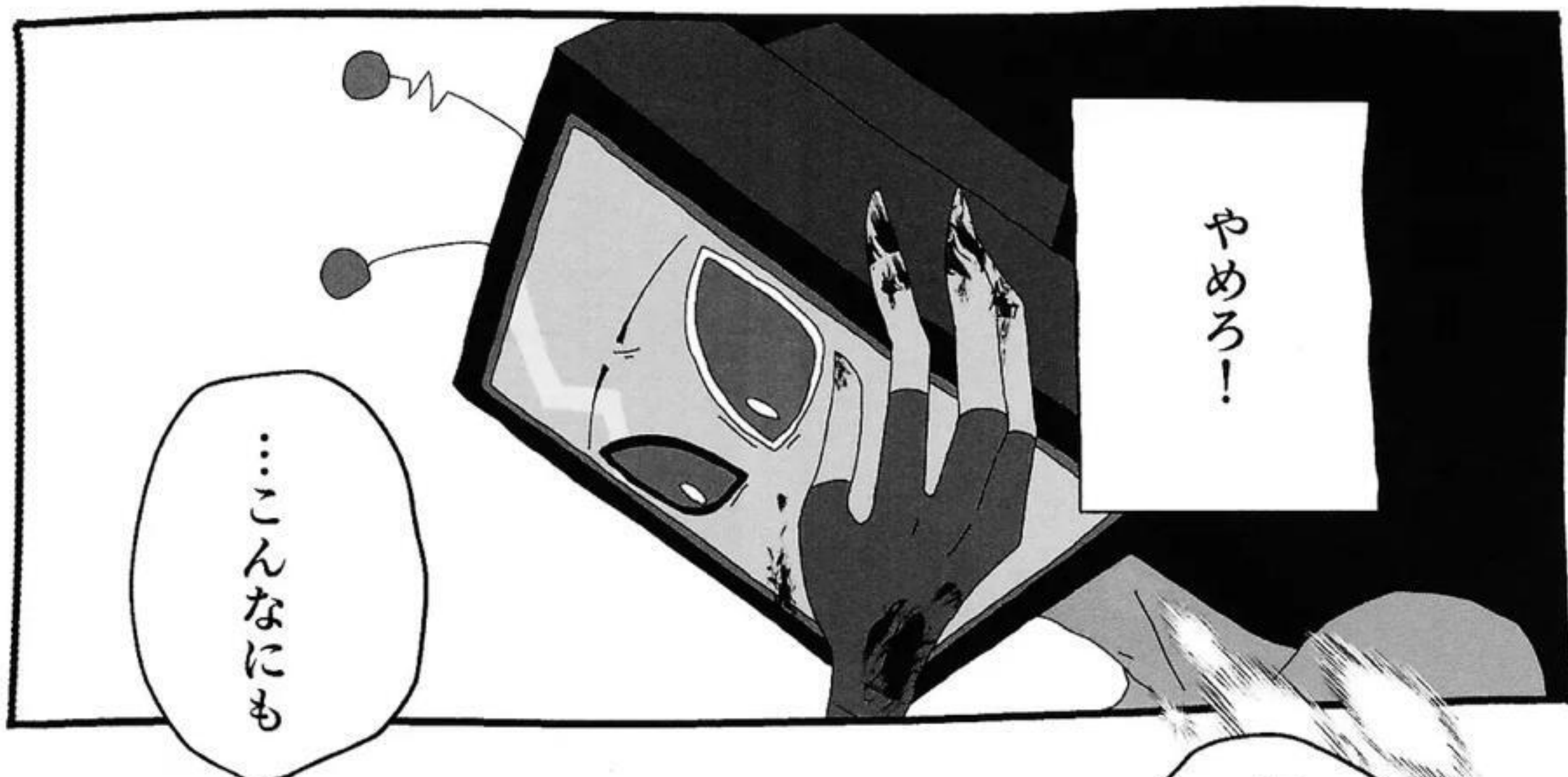
…
ツ
ハ
ハ



やめろ



やめろ



急激に体温が
下がっていくを感じた。

それは優しい眼差しだった。
自分が一気に
青けないものに成り行くのが
確かに、わかってしまった。

そんな目で
俺を見るな

傷付いた顔をして

ヴォックス

俺を

あなたって
本当に

哀れな人ですね

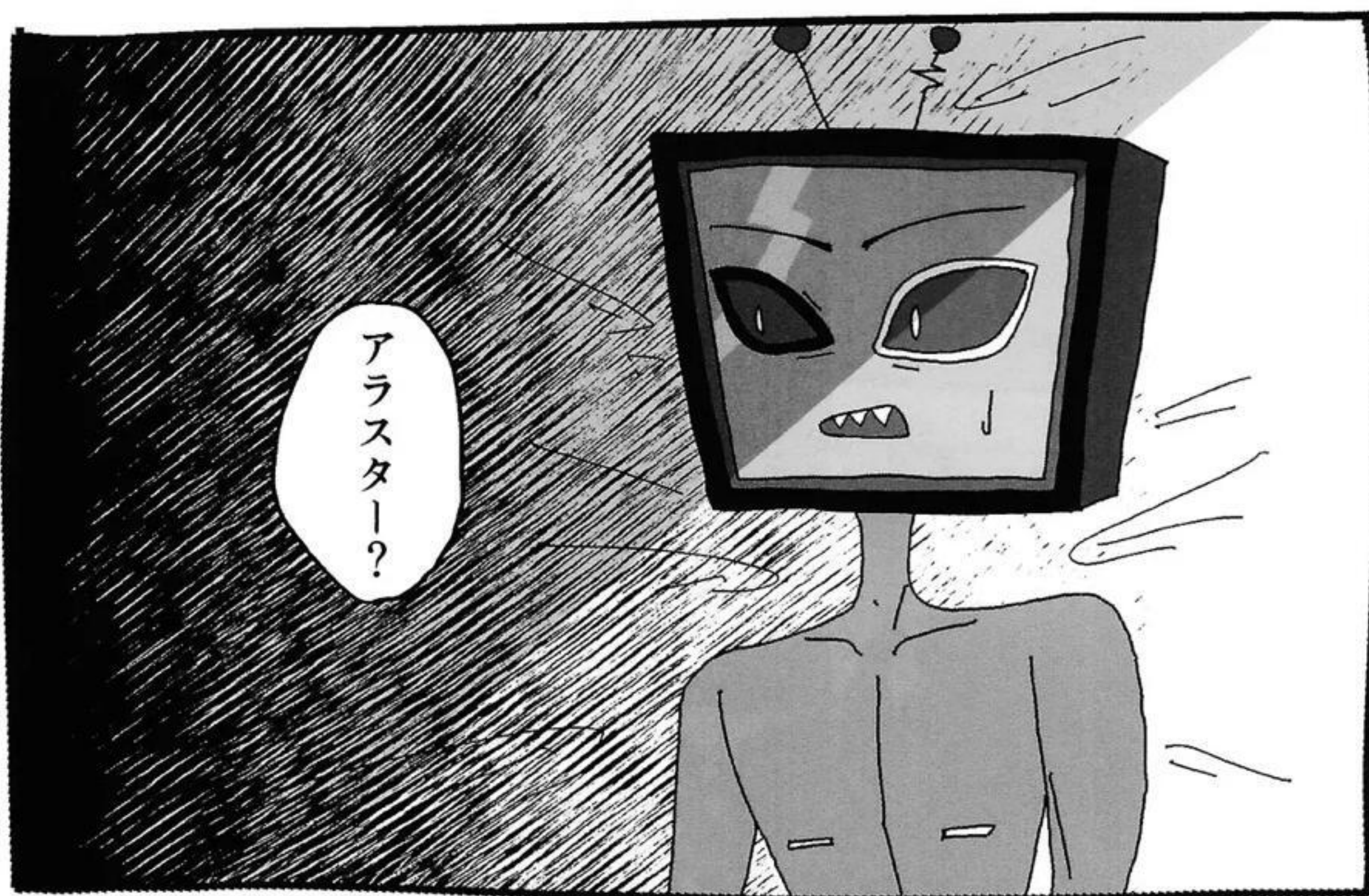
哀れまないでくれ！



その後のことは
あまり覚えていない



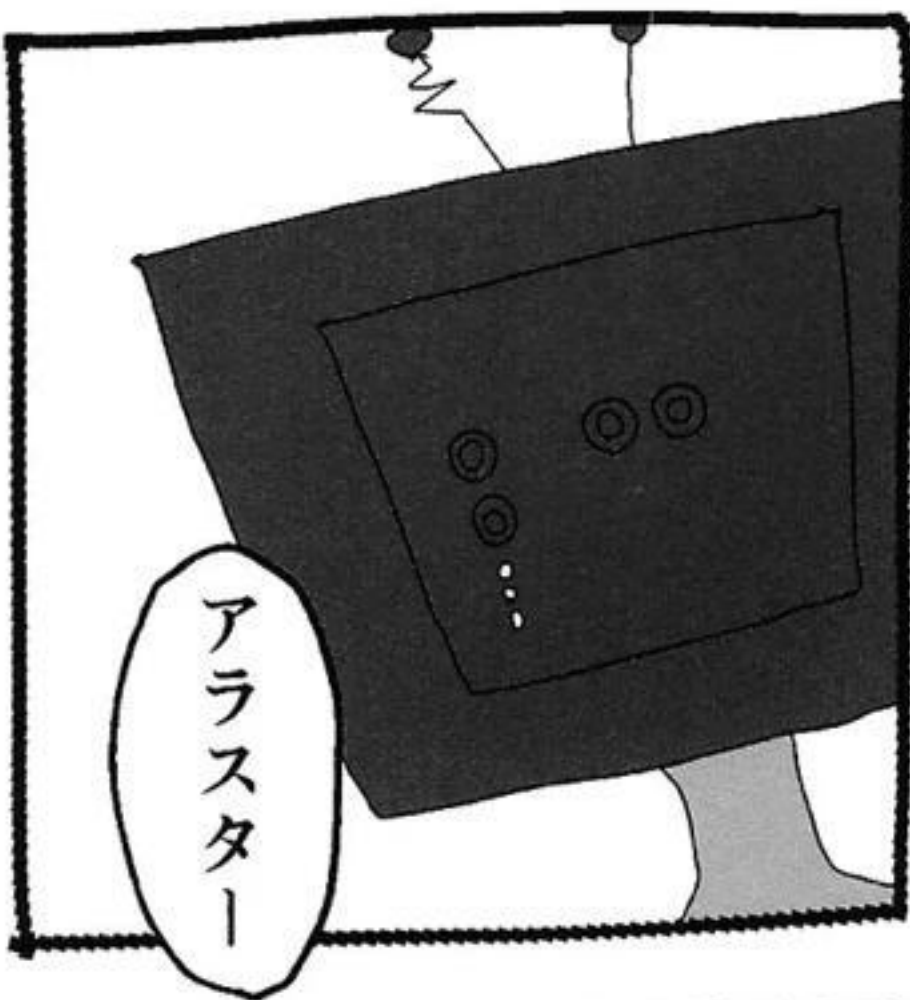
ただ目が覚めると
隣にアラスターは
いなくて



アラスター？



シートには一切の
血の跡も
見当たらず



録画していたはずの
データも見つからず



昨晚の事を、
俺が全部

•
•
また、悪夢だと
思い込むには
充分すぎた。

お手にとっていただきありがとうございます！
どうしてもヴォクアラで鬱本が出したいと
思っていたので出すことができ嬉しいです。

少しでもこういう話が好きだ！という方がいたら
嬉しい限りです。

感想などありましたら
こちらのQRコード先の
匿名ツール(wavebox)から
いただけると嬉しいです！
絵文字ぽちぽちだけでも
ありがたいです！



2024年5月5日

発行者
都鳥ササミ/都鳥精肉店
sasami.totori15@gmail.com
@sasami_totori

印刷所
株式会社グラフィック

※以下の行為はご遠慮ください。

- ・WEBサイトや各種SNSへのアップ
- ・オークションへの出品
- ・転売

404

NOT FOUND

Vox x Alastor

Hazbin Hotel
unofficial fanbook